

(1) 講話【無財の七施(むざいのしちせ)…②】

先月に引き続き、仏教の教え『無財の七施』についてお話し致しますが、時間の関係上、本日は「心施」についてお話し致します。『心施』「慈悲の心、思いやりの心で施す」というものです。「心配する、案じる、気配り」なども心の施しと言えるでしょう。

3.11が発生した2011年。あの大地震から1ヶ月後の4月10日、西和賀の震災支援チームのメンバーと共に、全国から光寿苑に寄せられた支援物資をハイエースいっぱい積んで、あの日は陸前高田の避難所数か所を廻っていました。夕方17時30分が過ぎた頃、その日の最終目的地であった某小学校の避難所に入りました。その日の最終地でもあり「残り物」感が否めない物資のラインナップになっていました。一般的感覚であれば、不要な物は受け取らないのがあたり前でしたが、そのセンター長さんはこう仰って、その物資を受け取ってくださいました。

『要らないなんて言えない。全国や世界の人たちがさ、名も顔も知らない俺たちのために贈ってくれたもんでしょ？俺は他所の震災では何もしなかったんだ。それを受け取らない訳にはいかないよ。』

にっこりと微笑まれました。支援する側の心施は勿論ですが、受け取る側の心施が存在する事を知った時間でもありました。そのセンター長さん、ふとグラウンドの向こう側を見やりながら、「あのばっちゃん、来た！」と仰った。あのばっちゃんとは、80代一人暮らし、高台に住んでいるため、家は無傷で済んだのですが、避難所は家が全半壊した人250名ほどで溢れかえっていたので、おばあちゃんは自宅で何とか過ごしていた人です。当時、避難所に物資が豊富に来たとしても、家が残った人たちは、「家が残っただけマシだから…」と言って、受け取れる物資が来ても遠慮して受け取っていなかった事実が沢山ありました。センター長さんがおばあちゃんについて語ります。

「あのばっちゃんすげんだわ。この前、この衛生電話で東京にいるっつう娘さん親子に電話しててよ。声デケえから聞こえちまってよ。孫さんに、「ばっちゃん元気だからね、心配すんなよ。そっちは大丈夫がい？ところで、こっちによ、チョコとお菓子入ったんだよ、好きだべ？そっつあ送るがぁ～？」って言うんだよ。逆だべどお！中々食糧ももらわねえ人なのによ。でもよ、それが母心だよな。親心だよな。その心に、俺だちは育ててもらってきた事をよ、身に染みて思うんだよな…。」

そのお話を伺って涙が止まらず、おばあさんの姿をずっと見ていた日を思い出します。心配してくれる、心を寄せてくれる人がいる事。実際に何かするだけが価値ではない心施の深さ。うっとしいと感じてしまう事もある私ですが、ありがたく受け取れる一日でありたい、そう思います。

(2) 連絡事項【講話+⑧～⑩理事長 ①②生活相談員 ③総括課長 ④～⑦事務課長】

- ① 本日のショートステイ、利用予定のT.Sさんはキャンセル、I.Tさん16時短期退居です。
- ② 本日の面会は、11時にI.Mさん第2事務所にて面会となります。
- ③ 本日、夜間防災訓練実施します。宿直者2名含め、役割を予め決めない形で行います。
- ④ 職場の健康診断の日程が4月8日の8時からとなりました。可能な限り、この日に受けてもらいたいと思いますが、日程等合わない人は別日別会場となります。
- ⑤ 「就業規則等の変更について」を回覧しますが、職員皆さんからご意見を受けて、よりよい職場環境にしていくものです。詳しくは、回覧される別冊「お知らせ」をご確認下さい。
- ⑥ 管理栄養士のS.Sさんが3月13日から勤務となります。特養に有資格者を配置する要件が介護保険法の中で求められており、ようやく応募があり、採用となりました。
- ⑦ 西和賀町の外国人労働者交流会が本日あり、光寿苑のお二人も14時から参加してきます。
- ⑧ 「西和賀の子育てと教育を考える会」の集会があります。詳細は「別紙」(右頁)ご参照下さい。
- ⑨ 新規職員の採用面接が10時よりあります。
- ⑩ 生活課長Rさん今月退職です。沢山守ってくれた大きな存在です。少しでも志しの継承を！